

(様式2)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 26年 5月 17日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3470103957		
法人名	有限会社 もえぎ		
事業所名	グループホーム もえぎ		
所在地	広島県広島市安芸区船越南二丁目20-16 (電話) 082-821-2261		
自己評価作成日	平成25年12月12日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	
-------------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	(社福) 広島県社会福祉協議会
所在地	広島県広島市南区比治山本町12-2
訪問調査日	平成26年2月19日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<p>その人その人の、今までの物語（生活歴）を大切にし、スタッフも物語を知った上で、各入居者の心に寄り添うケアを実践している。また、入居者の心が動いた時に、すぐに行動ができ、そして小回りのきくケアを実践している。個々人それぞれにケア内容は違い、一人ひとりが持つ力を最大限に活かし、笑顔が絶えないケアをスタッフ一丸で取り組んでいる。理念である「笑顔と温もりの中でそして家族として…」を大切に考え色々な場面において、自分の親や祖父母だったらどうするだろうかと常に自分自身に問いかけ、もえぎが入居者様の「家」に近づけるように日々努めている。買物等、どんどん外に出て行くようにしまた、家族や知人、ボランティアの方々の訪問を積極的に受け入れ、閉鎖的にならないように、常に外の空気が入って来るように努めている。また、家族会との合同行事を年に5回行い、ご家族との信頼関係を築くことが出来、年々参加して下さるご家族も増えている。また、職場体験や専門学校、ヘルパー2級の実習施設として、地域に開かれたホームになるよに努めていきたい。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>グループホームもえぎ（以下、ホーム）は、同じ建物内に小規模多機能型居宅介護事業所や認知症デイサービスがあり、互いに連携を図りながら地域で暮らし続ける高齢者のための地域密着型サービスを提供しておられます。入居後の暮らしを家族と同じように職員も寄り添い、職員は入居者のその日の状態や気持ちを尊重しながら食事や外出、レクリエーションなどを支援されています。また、「認知症がさらに悪化した場合はどうなるのだろう」という家族の不安軽減を図る取り組みとして、家族会や行事を開催した際に、同じ立場の家族同士が意見交換できる場をつくられています。重度化した場合や終末期ケアの要望にもできる限り応えながら、家族の精神面でのケアにも寄り添い、チームで支援に取り組めるよう体制を整えておられます。法人は、資格取得に挑戦する職員のバックアップ体制を整え、外部研修や事業所独自の勉強会を実施するなど、職員の意欲を大切にされた育成に努め、職員のモチベーションアップとスキルアップに繋げておられます。</p>
--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営(ふたばユニット)					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	毎月1回の職員全体会議で、基本理念に基づいた研修や話し合いを行い、基本理念について職員が常に振り返る様になっている。また、毎年理念に基づいたユニット目標を決め具体的な行動指針も作成し達成するように努め、年度末には評価を行い次年度につなげている。また、茶話会でも対応が難しい時は、入居者が「自分の家族だったら・・・」を基本にして、職員間で話し合い、毎日、笑顔で入居者に接するように努めている。	法人理念を基本に、入居者一人ひとりに寄り添い、顔の見えるケアをめざしておられます。ホーム内は、陽だまりのような温かい雰囲気溢れ、入居者と寄り添う職員の表情もゆったりと穏やかであり、普段と変わらない家での暮らしぶりが感じられ、理念の実践が伺えます。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	毎年、お祭りや地域の行事などに参加しており、夏祭りでは今年も職員が舞台に出てカラオケを歌い、会場を盛り上げた。また、準備や後かたづけや反省会にも、毎年参加させて頂いている。秋祭りではお神輿を担ぐなど、年々地元の人々と交流が深まっている。毎日、近所のスーパーへ買い物に行っているため、顔なじみになり声を掛けて下さる地域の皆様が増えている。毎朝、もえぎの周辺の掃除をしている。	ホーム周辺の地域では、住民との関わりを大切にしている習慣が残っており、ホームも地域行事に参加し、ホームとしてできることを手伝わられています。アコーディオン演奏やフラダンスなどの地域ボランティアの訪問もあります。また、認知症アドバイザーの資格を持つ職員が在籍しており、地域に出て知識を還元するなど繋がりを大切にしておられます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	認知症高齢者100万人キャラバンのアドバイザーとして地域の方に講演し、地域の方に認知症のことを理解してもらう努力をしている。また、地域密着型サービス事業者交流会にも参加し、地域の高齢者等の暮らしに役立てることはないか検討している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	女性会の副会長やスーパーの店長など地域の方を増やし、二ヶ月に一回、状況報告を行い、助言を頂きサービスの向上に努めている。出席しない職員は議事録を読み内容を把握している。	会議は、法人が運営する認知症デイサービス、小規模多機能型居宅介護事業所と合同で実施されています。会議では、それぞれの立場から意見や助言をいただく機会としても活用されています。時には、会議と同一日に避難訓練を実施し、消防署員から災害時の避難誘導の方法なども会議メンバーも立ち会い、ホームの現状を把握してもらう機会にもなっています。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	認知症サポーター養成講座や事業所の見学会等を通して担当者や現場の実情等を、積極的に伝える機会をつくっている。	市担当課に、運営推進会議の案内や報告書を届け、ホームの取り組み状況を伝えておられます。行政との協力関係を築きながら、認知症アドバイザー資格を持つ職員を中心に、地域住民から出された要望にも応えられています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>全体会議で、研修を行い職員の意識統一をしている。また、外部研修にも参加し、日々拘束は行わないことを職員全員が、意識してケアに取り組んでいる。少しでも疑問に思った事は全職員で話し合いをしている。入居者の動きを職員が言葉や強制的な態度で止めることがないよう、本人の思いを受け止めて支援をするようにしている。</p>	<p>職員は、日常会話の中で不適切な言葉がけになっていないか振り返り、正しい理解を深めるよう努められています。また、家族会で認知症についての勉強会を実施されています。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>職員は、事業所内で虐待が見過ごされる事がないよう注意を払い、防止に努めている。入居者については、トイレ時や更衣時、入浴時に皮膚観察をし、異変が無いか注意を払っている。職員は全体会議、新人研修でビデオを観て、何が虐待なのか、何故虐待をしてはいけないのかを、具体的に学んでいる。外部研修にも参加している。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>管理者が勉強会に参加し成年後見制度について学び活用できるよう努めている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>面接時、家族の不安や、疑問を聞き、契約時には、契約内容の説明をしっかりと行っており、納得して頂いてから、契約してもらっている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>重要事項にも載せているが、苦情処理の体制ができていない。また、不満、苦情など気軽に話して頂けるようコミュニケーションに努めている。意見箱も設けているが、直接、職員や管理者に言われることが多い。苦情が出た場合は早急に集まり話をしている。本人が納得されるように、素早い対応を心がけている。</p>	<p>家族会や運営推進会議で、入居者や家族の意見や要望を聞かれています。また、面会時には家族に声かけし、意見や思いの汲み取りに努められています。また、花見や敬老会、クリスマス会などの季節行事に家族の参加もあり、何でも言える関係が築かれています。</p>	
		<p>○運営に関する職員意見の反映</p>			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月一回会議を開き、職員間でまとまった意見を管理者に話し、意見交換をしている。また、管理者は日頃から不満、苦情など気軽に話しが出来るように職員とコミュニケーションを図っている。平成24年度から人事考課を取り入れて代表者や管理者は、年に4回、個別に面談を行って意見や提案を聴いている。	現場職員をメンバーとするフロア会議では、意見や提案を何でも言える場として毎月開催されています。管理者は、職員と話し合える関係づくりに努力し、職員の意見や提案が運営に反映できるよう取り組まれています。職員の要望を受けて、資格取得に向けた勉強会も企画されています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	向上心を持てる様に、ユニットの年間目標及び、個人の目標を作成している。その際受けたい研修を聞き希望に添った研修に参加出来るようにしている。また、日々のコミュニケーションを大事にしている。今年度より人事考課を取り入れて、やる気を引き出すようにしている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	年間で研修計画を立て法人内外の研修を受けられる体制を作っている。また、職員の興味がある研修を聞き、希望に添った研修が受けられるように努めている。外部からの講師を招いて接遇やセクシャルハラスメントについての研修を行っている。介護福祉士、介護支援専門員の資格習得に向けての勉強会や調理実習を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	地域密着サービス事業者交流会に参加している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前には、事前訪問もしくは、事前にホームに来ていただき、説明や本人の望むこと、不安などを、お話ししながら、受けとめる努力をしている。		
		○初期に築く家族等との信頼関係			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居前には、事前訪問、またはホームに来ていただき、説明や家族の望むこと、不安な事などを聞きながら、受け止める努力をしている。相手の立場に立ち、話を良く聞き受け止め関係を築くことに努め、家族の体験や思いを理解しその家族自身を支える努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	事業所として出来る限りの対応に努め必要に応じて、他のサービス利用の調整を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	入居者に調理の下ごしらえ、盛り付けなどを手伝ってもらい、職員も一緒に食事を摂ることで、共通の話題が増えている。本人の気持を理解するために、コミュニケーションをとり、共感しているようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	面会に来て頂くことを、積極的にお願いをし、家族と一緒に本人を支えるように取り組んでいる。また、入居時に共に支えていくことをお願いし、了承を得ている。家族会が出来て合同で行事を行う事により喜怒哀楽を共にしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	知人、友人からの手紙や、電話のやりとりを大切にしている。面会は自由に出来ている。また、今まで通っていた美容院へも出かけ、今までの関係が切れないうように支援をしている。	家族からの聞き取りを機会あるごとに行い、これまでの生活習慣や馴染みの人との関係が途切れない支援に努めておられます。友人の面会や、行きつけだった店でのレジ店員との会話など、これまでの馴染みのある人とのふれあいが継続できるよう取り組まれています。	
		○利用者同士の関係の支援	入居者同士 話ができて関わりを持てるように 職		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者同士、話ができ関係を持てるように、職員が中に入り支援をしている。また、相性の悪い入居者同士を離すのではなくスタッフが間に入り少しでも和やかに共有の時間を増やしていくよう努めている。調理の下ごしらえなど、入居者同士が協力をして、お手伝い出来るように職員が声をかけている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約終了後も相談があればいつでも応じ、これまでの関係を断ち切らないようにしている。		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者の希望、意向を大切に把握が困難な場合は本人の視点に立って思いを汲み取るように努めている。	家族から今までの習慣や暮らしぶりを聞き取りながら、その日その時の思いに添った支援に努めておられます。意思表示が難しい入居者は、日常の動きや会話、表情などから思いや意向を読み取り、寄り添った支援となるよう努力されています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前の面接時に本人の生活歴や生活環境、これまでのサービス利用の経過などの把握を行っている。また、お茶の時間や、お手伝いを一緒に行う時に、入居者が昔の暮らしや、季節の行事について、生き生きと話しをされる事があるので、しっかり聴いて把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日常生活を通して、その人らしい暮らしが出来るよう、努めている。また、お手伝いをして頂くことで、今出来ることを発見したり、思いがけない力を発揮される場面もあるので、できるだけ参加して頂けるように、声掛けをしている。		
		○チームでつくる介護計画とモニタリング			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人・家族から情報収集を行い、本人、家族の求めているものが提供できるようアセスメントをし、介護計画を作成している。またユニット職員での話し合いを定期的に行い、各入居者のケアのあり方、意見、アイデア等を反映させて介護計画を作成している。	計画は、3か月ごとに見直されています。本人や家族の要望や変化、医療情報、職員の意見を反映させながら、現状に即した介護計画の作成に取り組まれています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別の記録用紙があり、入居者の状態を日々記録している。また、職員は業務前に記録を読み、情報の共有に努め、業務に活かすよう心掛けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	本人や家族の要望に向かい合い、その時々に必要な支援を出来る限り柔軟に対応するよう取り組んでいる。急な外出や、予定の変更があっても本人が安心して過ごせるよう対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	月1回、音楽会や法話の時間を通じて地域の人々の力を借り、協力しながら支援をしている。また、中学生の職場体験を積極的に受け入れている。生徒さんと調理や買い物、ゲームを一緒に行うことで会話が弾み、生き生きとした表情で過ごされ、生徒さんとの交流を楽しみにされている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	週に1回、協力医の定期的な往診があり、本人、家族の希望があれば馴染みの医師による継続的な医療を受けて頂いている。本人の訴えや日々の変化など情報提供している。入居者の急変時には、夜間であっても迅速に医師が対応を下さる。	入居者は、協力医療機関と従来のかかりつけ医に受診されています。また、外来受診には、職員が付き添い、家族の負担に配慮した支援に心がけておられます。夜間や急変時にも24時間対応できるよう、協力体制を整えておられます。	
		○看護職員との協働			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	法人内で看護職員を確保し健康管理や医療的な支援を行っている。入居者に変化や異常がみられたらすぐに看護師に伝えて、指示を受けて対応をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、家族の了解を得た上で本人に関する情報提供を行っている。入院中も面会に行く等し関わりを継続し、病院関係者とも連絡を取り、短期間での退院に繋がるように努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約時、重度化した場合の指針を説明している。重度化した場合、早い段階で本人、家族の意向を確認しケア関係者、かかりつけ医を交えて対応方針を話し合い共有化を図っている。	重度化や終末期の支援は、研修や経験のある職員指導のもと、職員全体でチームとして取り組めるよう体制を整えておられます。看取りの要望があれば、兆候が見られた場合に家族への説明と確認を繰り返し行い、家族の精神面のケアにも取り組まれています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急時の対応マニュアルがあり、いつでも職員が目を通せるようにしている。入社時にバイタルチェックやAEDの使い方について指導を行い、全体会議において半年に一回は、AEDを使って勉強会を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回防火訓練を行っている。その時同ビルの他事業所の方も参加して頂き、避難誘導の協力を得ている。また、事務所に平面図へ避難経路や消防設備の配置を掲示している。防火訓練時、運営推進会議のメンバーの方にも参加して頂き、意見や災害時の協力体制について話している。	訓練には、デイサービスや小規模多機能型事業所、近隣住民、入居者が参加され、災害時に確実な避難誘導ができるよう取り組まれています。訓練時には反省会を実施し、消防署員によるアドバイスを受けながら、必要な知識を身につけておられます。	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
		○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	14	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	入居者ひとり一人が、笑顔になるような言葉かけを心がけている。拒否的な言葉は使わないように気を付けている。	職員は、定期的な研修を通して日々の支援に繋げておられます。言葉がけは、親しみの中にも馴れ合いにならないように心がけ、認知症の理解を深めながら支援されています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	入居者の発言をよく聴き、出来るだけ本人の希望に沿った生活が出来るように心がけている。自分の思いを表現するのが難しい入居者に対しては、表情や体調をみて職員間で話し合い、納得した生活を送って頂けるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	どのように過ごしたいのか、入居者の意見を聴き、出来るだけ本人のペースに合った生活が出来るように対応している。意思表示の難しい方に対しても本人の状態や表情を読み取り、出来るだけ希望に添えるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	朝、服を着替える時は、出来るだけ本人にお聞きして、服を選んでいく。近所の理・美容院へ出かけて、個々の希望に合わせたカット等行っている。朝の整容の時に髪のセットに気を付けている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	本人の好みを聞き、出来るだけメニューに取り入れるように心がけている。聞けない方には、季節的なものを取り入れるようにしている。調理や片付けなど職員と一緒にしている。また、食事と一緒にとり、声かけをしながら楽しい雰囲気になるよう心がけている。天気の良い日には、職員と食材の買物に行っている。	食事のメニューは、その日に食べたいものを作ることを基本にされています。入居者と職員と一緒に食材を買いに出かけたり、調理を手伝うなど、一人ひとりの持つ能力が発揮できる役割を持つことで、食事が楽しみの一つとなるよう取り組まれています。職員は、入居者と会話を楽しみながら、和やかな雰囲気の中で、一人ひとりのペースで食事ができるよう支援されています。	
		○栄養摂取や水分確保の支援	毎食、食事量・水分量のチェックを行っています		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	母長、長事重、ホカ重のケアを行っている。水分摂取の少ない入居者には個別に飲み物を用意して、こまめに飲んで頂く様にしている。栄養バランスのよい食事になるように心がけている。入居者の体重測定を月に1回と、個別に毎週月曜日に行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後に口腔ケアの声かけを行い、困難な方には状態に合わせて職員が介助している。また、うがいが出来ない方には綿棒を使用して口腔ケアを行っている。しかし、自分で歯磨きをされる方の口腔内のチェックが出来ていない。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排尿、排便チェックを行い、排泄パターンを把握し、トイレで排泄が出来るように努めている。下着・リハビリパンツ・尿取りパット等日中、夜間、外出時に応じて使い分けている。失禁が多い入居者の清拭の声かけは無理強いせず気持ちよく過せる様に声かけを行っている。	各ユニットに3か所のトイレが設置されています。トイレは、車椅子が入れる広いスペースがあり、汚染処理設備も整えておられます。なるべくトイレでのスムーズな排泄の取り組みとして、それぞれのパターンに合わせて声かけや誘導を行われています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	便秘にならないように、出来るだけ水分を多く摂る様に心がけている。野菜を多くメニューに取り入れている。リハビリ体操や夕方のレクリエーションに参加してもらい、身体を動かすように声を掛けている。毎食後トイレ誘導を必ず行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	一人ひとりの体調に合わせて無理強いせず、入浴を楽しめるよう、湯の温度などなるべく希望に沿うように心がけ、声かけや必要に応じて介助を行っている。また、季節に応じてゆず湯や菖蒲湯などもしている。	隔日の入浴を基本に支援されています。風呂場はエアコンが設置されており、外気との温度差がないよう配慮されています。天気の悪い日は、洗濯物の乾燥もできるよう整備されています。入浴を好まない入居者には、声かけのタイミングを図るなどの工夫がされています。	
		○安眠や休息の支援			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	その時々状況に応じて、ベッドで休んだり、フロアでも休めるようにソファを置き、何処でも休んで頂けるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	一人ひとりの個人ケースに薬の内容や副作用の説明書を閉じている。また、入居者全員の薬の説明書をファイルして、書棚に保管し、すぐに確認出来るようにしている。新しい薬など、職員が把握出来るようにノートに記載し、情報が共有出来るようにしている。2人の職員で必ず服薬前のダブルチェックを行い、誤薬がないように気を付けている。薬の副作用などの細かいところの把握は出来ていない。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	各入居者の生活歴を把握した上で、食器洗いや洗濯物干し、洗濯物たたみ、おかずの盛り付け、調理の下ごしらえ、掃除など役割を持って頂いている。季節の行事や誕生日会等、カレンダーに書いており、楽しみが共有出来るよう努めている。散歩、買物などの外出の機会を多く取り入れるように努めている。また、一人ひとりの楽しみごとを増やしていくよう会話の中から聞き取り提案をしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	日常の買い物は入居者の体調をみながら声を掛け、順番に出かけている。また、ご家族の協力を得て買い物や外食、美容院、お寺参りをされている。	入居者の習慣やその日その時の希望に添って外出されています。普段は、買い物や散歩に出かけ、気分転換を図っておられます。音戸にある瀬戸公園のつつじ観賞や平和公園へ千羽鶴の奉納に出かけるなど、季節ごとの外出行事も実施されています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	買い物の時は、職員が代行することが多いが、出来る方は自分で支払いをしてもらっている。		
		○電話や手紙の支援			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	本人の希望に応じ、電話で自由に話が出来るようにしており、職員は席を外すようにしている。手紙も自由にやり取り出来るように支援をしている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節の花を飾ったり、季節に関するものを置いている。犬も飼育している。整理整頓に心がけ unnecessaryなものは置かないようにしている。また、ソファを増やし皆がゆったり過ごせるようしている。	広いリビングと食堂が一体的な造りとなっています。入居者は、リビングのソファでゆったり寛ぎ、家族やボランティアと楽しく過ごされています。壁面には、入居者が作成したモニュメントや笑顔の写真、色紙や短冊などを飾られています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ソファやテーブル、畳などの空間があり入居者同士で話をされたり、思い思いの場所で過ごすことができるよう、配置も心かけている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	家で使い慣れた生活用品や衣類、家具、アルバム等持ち込んで頂いている。タンスの上に家族の写真、家族からの手作りメッセージカード、本などを飾っている。お気に入りのぬいぐるみをベッドの上に並べて本人が落ち着くようにされている。	居室には、たくさん収納できるクローゼットが設置されています。入居者は、テレビやベッド、衣類など使い慣れた物を持ち込まれています。状態に合わせて、ギャジベッドのリースが可能となっており、それぞれの暮らしのスタイルや身体状況に合わせて支援されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	入居者一人ひとりの出来る力を把握して出来る事と出来ない事を見極めて、一人で出来ることは時間がかかっても行えるように見守りを行い、出来ない事を毎日の声かけや対応で手助けをし、自立した生活が過ごせるようにしている。今、出来ていることを継続できるように声掛けを行っている。入居者の出来ることを一つでも増やせるように心がけている。		

V アウトカム項目(ふたばユニット)			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営(みつばユニット)					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	毎月1回の職員全体会議で、基本理念に基づいた研修や話し合いを行い、基本理念について職員が常に振り返る様にしている。また、毎年理念に基づいたユニット目標を決め具体的な行動指針も作成し達成するように努め、年度末には評価を行い次年度につなげている。また、茶話会でも対応が難しい時は、入居者が「自分の家族だったら・・・」を基本にして、職員間で話し合い、毎日、笑顔で入居者に接するように努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	毎年、お祭りや地域の行事などに参加しており、夏祭りでは今年も職員が舞台に出てカラオケを歌い、会場を盛り上げた。また、準備や後かたづけや反省会にも、毎年参加させて頂いている。秋祭りではお神輿を担ぐなど、年々地元の人々と交流が深まっている。毎日、近所のスーパーへ買い物に行っているの、顔なじみになり声を掛けて下さる地域の皆様が増えている。毎朝、もえぎの周辺の掃除をしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	認知症高齢者100万人キャラバンのアドバイザーとして地域の方に講演し、地域の方に認知症のことを理解してもらおう努力をしている。また、地域密着型サービス事業者交流会にも参加し、地域の高齢者等の暮らしに役立てることはないか検討している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	二ヶ月に一回、状況報告をし、助言を頂きサービスの向上に努めている。出席しない職員は議事録を読み内容を把握している。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	認知症サポーター養成講座や事業所の見学会等を通して担当者と現場の実情等を、積極的に伝える機会をつくっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>全体会議で、研修を行い職員の意識統一をしている。また、外部研修にも参加し、日々拘束は行わないことを職員全員が、意識してケアに取り組んでいる。少しでも疑問に思った事は全職員で話し合いをしている。入居者の動きを職員が言葉や強制的な態度で止めることがないよう、本人の思いを受け止めて支援をするようにしている。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>職員は、事業所内で虐待が見過ごされる事がないよう注意を払い、防止に努めている。入居者については、トイレ時や更衣時、入浴時に皮膚観察をし、異変が無いか注意を払っている。職員は全体会議、新人研修でビデオを観て、何が虐待なのか、何故虐待をしてはいけないのかを、具体的に学んでいる。外部研修にも参加している。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>管理者が勉強会に参加し成年後見制度について学び活用できるよう努めている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約時や契約解除の際、相手の立場に立って、不安や疑問等を表せるような働きかけと説明を行い、納得された上で、手続きを始めていく等、個別の配慮や取り組みを行っている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>重要事項にも載せているが、苦情処理の体制ができていない。また、不満、苦情など気軽に話して頂けるようコミュニケーションに努めている。意見箱も設けているが、直接、職員や管理者に言われることが多い。苦情が出た場合は早急に集まり話をしている。本人が納得されるように、素早い対応を心がけている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月一回会議を開き、職員間でまとめた意見を管理者に話し、意見交換をしている。また、管理者は日頃から不満、苦情など気軽に話しが出来るように職員とコミュニケーションを図っている。平成24年度から人事考課を取り入れて代表者や管理者は、年に4回、個別に面談を行って意見や提案を聴いている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	向上心を持てる様に、ユニットの年間目標及び、個人の目標を作成している。その際受けた研修を聞き希望に添った研修に参加出来るようにしている。また、日々のコミュニケーションを大事にしている。平成24年度より人事考課を取り入れて、やる気を引き出すようにしている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	年間で研修計画を立て法人内外の研修を受けられる体制を作っている。また、職員の興味がある研修を聞き、希望に添った研修が受けられるように努めている。外部からの講師を招いて接遇やセクシャルハラスメントについての研修を行っている。介護福祉士、介護支援専門員の資格習得に向けての勉強会や調理実習を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	地域密着サービス事業者交流会に参加している。		

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	利用前には、事前訪問もしくは、事前にホームに来ていただき、説明や本人の望むこと、不安などを、お話ししながら、受けとめる努力をしている。		
		○初期に築く家族等との信頼関係			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	利用前には、事前訪問、またはホームに来ていただき、説明や家族の望むこと、不安な事などをお話しながら、受け止める努力をしている。相手の立場に立ち、話を良く聴き受け止め関係を築くことに努め、家族の体験や思いを理解しその家族自身を支える努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	事業所として出来る限りの対応に努め、必要に応じて他のサービス利用の調整も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	入居者に調理の下ごしらえ、盛り付けなどを手伝ってもらい、職員も一緒に食事を摂ることで、共通の話題が増えている。本人の気持を理解するために、コミュニケーションをとり、共感していけるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	面会に来て頂くことを、積極的にお願いをし、家族と一緒に本人を支えるように取り組んでいる。また、入居時に共に支えていくことをお願いし、了承を得ている。家族会が出来て合同で行事を行う事により喜怒哀楽を共にしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	知人、友人からの手紙や電話のやり取りを大切にしている。面会は自由に来て頂いている。また、今まで通っていた美容院へも出かけ、今までの関係が切れないように支援している。		
		○利用者同士の関係の支援			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者同士、話ができ関わりを持てるように、食事のテーブル席の配置やソファの座る位置を工夫したり、職員が中に入るなどしてトラブルにならないよう支援をしている。毎日、全員参加出来るようなレクリエーションを行い、関わりを持てるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約終了後も相談があればいつでも応じ、今までの関係を断ち切らないようにしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者の希望・意向を大切に、把握が困難な場合は、本人の視点に立って思いを汲み取るように努めている。今年度はひもときシートを活用して本人の気持ちを理解するように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前の面接時に本人の生活歴や生活環境、これまでのサービス利用の経過などの把握を行っている。また、お茶の時間や、お手伝いを一緒に行う時に、入居者が昔の暮らしや、季節の行事について、生き生きと話しをされる事があるので、しっかり聴いて把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日常生活を通して、その人らしい暮らしが出来るよう、努めている。また、お手伝いをして頂くことで、今出来ることを発見したり、思いがけない力を発揮される場面もあるので、できるだけ参加して頂けるように、声掛けをしている。		
		○チームでつくる介護計画とモニタリング			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人・家族から情報収集を行い、本人、家族の求めているものが提供できるようアセスメントをし、介護計画を作成している。またユニット職員での話し合いを定期的に行い、各入居者のケアのあり方、意見、アイデア等を反映させて介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別の記録用紙があり、利用者の状態を日々記録している。また、職員は業務前に記録を読み、情報の共有に努め、業務に活かすよう心掛けている。体調や日々の様子などを、少しでも変化がある時には、必ず申し送りや連絡帳へ記入し情報の共有をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	本人や家族の要望に向かい合い、その時々に必要な支援を、出来る限り柔軟に対応するよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	月1回、音楽会や法話の時間を通じて地域の人々の力を借り、協力しながら支援をしている。また、中学生の職場体験を積極的に受け入れている。生徒さんと調理や買い物、ゲームを一緒に行うことで会話が弾み、生き生きとした表情で過ごされ、生徒さんとの交流を楽しみにされている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	週に1回、協力医の定期的な往診があり、本人、家族の希望があれば馴染みの医師による継続的な医療を受けて頂いている。本人の訴えや日々の変化など情報提供している。入居者の急変時には、夜間であっても迅速に医師が対応をして下さる。		
		○看護職員との協働			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	法人内で看護職員を確保し健康管理や医療的な支援を行っている。入居者に変化や異常がみられたらすぐに看護師に伝えて、指示を受けて対応をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、家族の了解を得た上で本人に関する情報提供を行っている。入院中も面会に行く等し関わりを継続し、病院関係者とも連絡を取り、短期間での退院に繋がるように努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約時、重度化した場合の指針を説明している。重度化した場合、早い段階で本人、家族の意向を確認し、ケア関係者、かかりつけ医を交え、対応方針を話し合い共有化を図っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急時の対応マニュアルがあり、いつでも職員が目を通せるようにしている。入社時にバイタルチェックやAEDの使い方について指導を行い、全体会議において半年に一回は、AEDを使って勉強会を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回防火訓練を行っている。その時同ビルの他事業所の方も参加して頂き、避難誘導の協力を得ている。また、事務所に平面図へ避難経路や消防設備の配置を掲示している。防火訓練時、運営推進会議のメンバーの方にも参加して頂き、意見や災害時の協力体制について話している。		

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	一人ひとりの誇りを尊重しプライバシーを損ねないような言葉かけや対応を個々に行っており、スタッフ間で声掛けを行い、なるべく統一を図っているが、時に乱雑な声掛けや職員のペースになっている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日々の生活の中で、表情や会話の中で自己決定やその人らしい希望や願いを、意図的に引き出すように努めている。レクリエーションやお手伝いなど、自己決定が出来るような、働きかけをしている。普段の会話の中で、願いや不安など話し合える関係を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人ひとりの生活のリズムに配慮をしながら、生活歴の中で得意なこと、好きなことを、日々の生活の中でしてもらい、その人らしく暮らせるよう努めている。出来る限り本人のしたいことや出来ることをして頂くように努める。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	選べる方には自分で服を選んでもらい、個性を大切に、おしゃれを楽しんで頂いている。近所の理・美容院へ出かけて、個々の希望に合わせたカット等行っている。自分で選ぶことが出来ない方には、職員が本人の気持ちになって選ばせて頂いている。毎日お化粧をしてもらっている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	入居者の好みを聞き、出来るだけメニューに取り入れ、誕生日や季節の行事には、それに合わせたメニューにしている。調理や片付けなど職員と一緒にしている。また、食事も一緒にとり、声かけをしながら楽しい雰囲気になるよう心がけている。		
		○栄養摂取や水分確保の支援			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	毎食、食事量・水分量のチェックを行っている。身体レベルに合わせて調理方法を工夫し、見た目にも色彩が綺麗で食欲がわく様な盛り付けを心がけている。毎週月曜日に体重測定を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、口腔ケアの声かけを行い困難な場合は、ゼスチャー等を交えながら、状況に合わせて支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排便・排尿チェックを行い、一人ひとりの排泄パターンに合わせ、可能な限りトイレでの排泄に向けた、支援をおこなっている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。	便秘気味の方には自然排便が出来るように水分摂取に気をつけ、腹部をマッサージする等し対応している。また、バナナ牛乳や繊維質のものを食事にとり入れている。全体会議においても便秘に対する原因や及ぼす影響等について話し合いを行っている。食後トイレ誘導を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。	一人ひとりの体調に合わせて無理強いせず、入浴を楽しめるよう、歌を唄ったり湯の温度などなるべく希望に沿うように心がけ、声かけや必要に応じて介助を行っている。また、季節に応じてゆず湯や菖蒲湯などもしている。男性職員では、恥ずかしいと言われる入居者には、女性職員が支援をしている。		
		○安眠や休息の支援			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	その時々状況に応じて、ベッドで休んだり、フロアでも休めるようにソファを置き、何処でも休んで頂けるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	全入居者の薬の内容や副作用の説明が書いてあるものを全職員がすぐ見れる所に置いて、把握しているが、薬が変更になった時など把握が出来ていないことがある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	日々の生活の中で個々に役割を持ってもらい、犬の世話や塗り絵、ピアノを弾いたり、散歩や行事、買い物など気晴らしが出来るよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	毎日、買い物に出掛けているが、出掛ける入居者に偏りがある。ご家族のご協力を得て、買い物やドライブに出掛けている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	買い物の時は、職員が代行することが多いが、出来る限りお金を支払う機会をつくる努力をしている。		
		○電話や手紙の支援			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	本人の希望に応じ、電話で自由に話ができるようにしており、職員は席を外すようにしている。手紙も自由にやり取りができるように支援をしている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節の花を飾ったり、季節に関するものを置いている。犬も飼育している。また、毎月、千切り絵や塗り絵、切り絵などで季節感が出るものを入居者と行き、壁に貼っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ソファやテーブル、畳などの空間があり入居者同士で話をされたり、思い思いの場所で過ごすことができる。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	家で使い慣れた生活用品や衣類、写真、アルバム等持ち込んでいただき自分らしく過ごせるようにしている。また、昔話をして自分らしく過ごしておられる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	入居者一人ひとりの出来る力を把握して出来る事と出来ない事を見極めて、一人で出来ることは時間がかかっても行えるように見守りを行い、出来ない事を毎日の声かけや対応で手助けをし、自立した生活が過ごせるようにしている。今、出来ていることを継続できるように声掛けを行っている。入居者の出来ることを一つでも増やせるように心がけている。		

V アウトカム項目(みつばユニット)			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式3)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム もえぎ

作成日 平成 26 年 5 月 27 日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1		同法人のグループホームが併設しているが, 交流が無いのはもったいない。	行事を一緒に行う。	別々に実施していた行事を一緒に行う。 事業所対抗で風船バレーを行う。 散歩の途中などに訪問し, 交流を図る。	平成26年度中
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には, 自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は, 行を追加すること。